

神奈川県フォーラム
「定常化社会へ向けた
内発的な地域づくり」の課題
報告資料
(2014年11月26日)

名古屋経済大学経済学部

榎平 龍宏

makidaira0820@gmail.com

「定常化社会」へ向けて

■ 地方が衰退すれば、都市も衰退する

→地方から都市への緩やかな人口移動を前提とした上で、都市・地方共に「定常状態で」維持できる規模を達成することが重要

● 課題への対処策として…

① 暮らしやすい都市(まち)づくりの推進

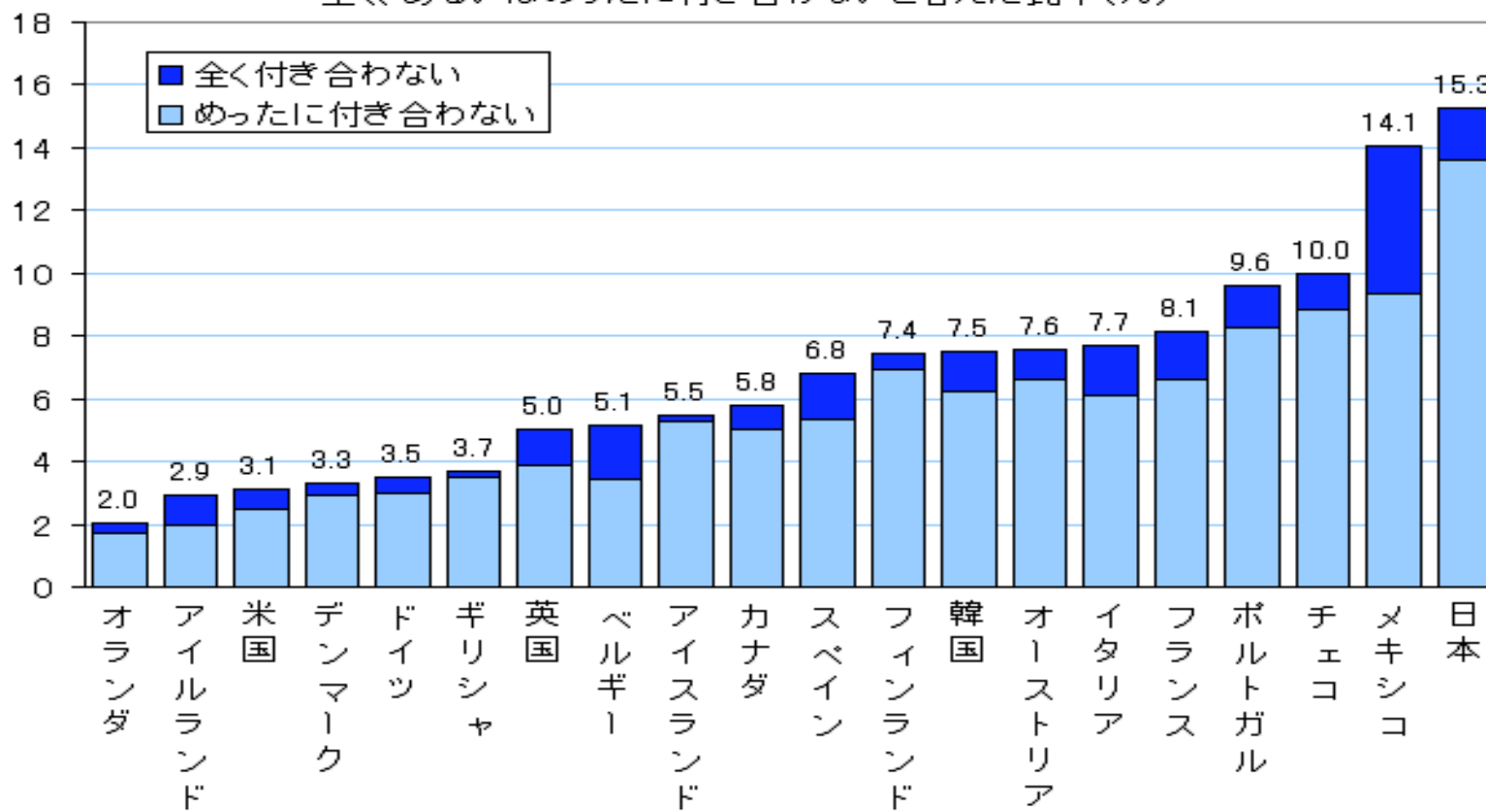
➤ 「都市型コミュニティ」の創造で「地域力」を高めよう

- 「行政-町内(自治)会」のみでは新たな課題に対処困難
- 例えば、「行政-**地域協議会**-町内会」システムで、子育てや教育、防災、地域福祉などの課題に地域で取り組む仕組みづくりを
- 「**コミュニティ・スクール**(学校運営協議会制度, 文科省)」の取り組みなどで、「地域で子育て・教育」を実践を

「都市型コミュニティ」創造の必要性

社会的孤立の状況(OECD諸国の比較)

友人、同僚、その他宗教・スポーツ・文化グループの人と全く、あるいはめったに付き合わないと感じた比率(%)



(注) 原資料は世界価値観調査1999-2002。英国はグレートブリテンのみ。

(資料) Society at a Glance: OECD Social Indicators - 2005 Edition

「定常化社会」へ向けて

課題への対処策として…

① 暮らしやすい都市(まち)づくりの推進

➤ **既存ストックの有効活用**(=公共財供給量の適正化)

→ 歴史的・文化的な建築物(資源)を活用しながら保存(ソフト中心の創造都市づくり)

➤ **「田舎で働きたい／暮らしたい人」の分散誘導**

→ 県内の人口減少自治体との情報共有・連携強化がカギ／大都市周辺に「豊かな里山・里海」がある神奈川県をの良さを活かす

➤ 以上を踏まえた**コンパクト・シティ化**の推進

→ 都市通勤圏の無秩序拡大による長時間通勤の是正／「職住接近」のまちづくりの推進／「癒やし空間」としての農山村へのアクセス整備

定常化の時代にふさわしい地域づくり

課題への対処策として…

② 一定の人口が戻っていける「地方再生」を

→都市と農村の**人材の流動性**を高めていくことが重要

● 若い世代の「ローカル志向」の強まり(=農村回帰)

➤ まちづくりや地域おこしに取り組む若年層の増加

→「**地域おこし協力隊**」を2016年度3倍の3千人に(安倍構想)

➤ 「**地域密着型人口**」(高齢者や子供)の比率増加と「**グローバル人材**」育成・支援施策の重要性

→「GとLの峻別」ではなく、「GもLも理解できる」(グローバルな)人材育成

→故郷を持たない世代に対して「農村ワーキング・ホリデー」や「農山漁村宿泊体験」、グリーン・ツーリズム等、「**地方の現実を肌身で知る機会**」(コト消費機会)を意識的に増やす必要性

若い世代のローカル志向の強まり

- リクルート進学総研調査(2013年)
 - 大学に進学した者のうち、49%が大学進学に当たり「地元に残りたい」と考えて志望校を選定。この数字は4年前に比べて10ポイント増加。
- 文部科学省の12年度調査
 - 高校生の県外就職率は18.6%で、09年から3.3ポイント下落。
- 内閣府2007年調査(世界青少年意識調査、18~24歳を対象)
 - 「いま住む地域に永住したい」と回答した人は43.5%と、98年の調査から10ポイント近く増加。

定常化の時代にふさわしい地域づくり

課題への対処策として…

② 一定の人口が戻っていける「地方再生」を

→都市と農村の**人材の流動性**を高めていくことが重要

- 地域資源を見直し活用した地域住民主体の地域づくり
→地域状況に則した「**内発的発展**」の道の模索

➤ 地域の「内発的発展」とは…

- 1) 地域内の資源や伝統文化, 人材を活かす (**内発性**)
- 2) 産業振興のみならず, 生活の質の向上を目指す (**総合性**)
- 3) 地域内の産業同士の結びつきを強める (**地域経済循環**)
- 4) 地域住民の参加や主体性を重視する (**住民参加**)

「内発的発展」の展開方向

● 「内発的発展」による地域づくりの基本条件

- 1) 完成度の高いグラウンド・デザイン
- 2) 地域住民の理解促進
- 3) リーダーの存在
- 4) 運営資金の確保



- 「時代にふさわしい地域の価値を住民主体で内発的に創り出し、上乗せしていくプロセス」こそ「真の地域づくり」
- 「ネオ・内発的発展論」・・・地域内部の内発的な力だけでなく、都市や外部人材の作用力を認識し、利用することの重要性(ヨーロッパにおける農村地域発展の新しい方向, いわば「共発的発展」)

さいごに

■ 「産業の地域化」と「地域の産業化」の両輪に基づく地域経済づくり

- 「産業の地域化」とは・・・地域内の産業を、地域でハンドリングできる能力を高め、できるだけ地域内に経済的循環がとどまるネットワーク形成を図っていくこと
- 「暮らしの産業化」とは・・・地域の生活者の課題を、ビジネス手法で解決していく起業を促進していくこと(ソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネスなど)

具体化は容易ではないが、右のような「3×3(スリー・バイ・スリー)政策」のようなアイデアを用いて、比較優位産業(産業)と、これからの少子高齢化社会における課題(生活)を掛け合わせた総合的な産業政策の具体化が急がれる。

列1	製造業	農林業	サービス産業
健康・福祉	福祉・医療機器産業/ 機能性食品産業/ コミュニティ・モバイル 産業	セラピー産業(農福 連携)/天然素材活 用健康産業/機能性 食品原料生産	ケアハウス型ホテル関 連産業/山岳観光安全 サービス産業
環境	バイオ燃料産業/自 然エネルギー利用機 器産業/超小型燃料 電池産業	バイオマスエネル ギー産業/緑のダム 創出産業/県産材使 用商品産業	ネイチャリング・ツアー 関連産業/自然環境保 全産業/エコホテル関 連産業
教育	地域産業学習/もの づくり教室/コンテンツ 教室	クラインガルテン・オ フィス/緑の環境教 育産業	SOHO,SOBO(別荘オ フィス)/ホスピタリティ 教育産業